

対応が急がれるガバナンスと リスクマネジメントの監査

～業務監査では足りない組織運営の監査の方向と実務展開

『内部監査実務マスター・コース』〔第8回開催分（全9会合）〕

●日 時 ● 2018年4月17日（火）14:00～17:00

●会 場 ● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』

●講 師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）

大手監査法人で20年近く会計監査に従事し、その間、法人内の会計監査アプローチの普及・研修活動や公認会計士協会本部の委員会活動にも専念。その後十余年は、アンダーセン、PwC及びE&Yの監査法人で内部監査、内部統制、リスク管理、不正調査等に特化。新日本監査法人シニアパートナーを2012年に退任後はボルボグループで日本の内部監査統括の経験も経て、現在も同グループ会社UDトラックスの監査役として監査に従事。また藤井範彰公認会計士事務所代表として内部監査等の研修・執筆活動にも従事。著書「内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」2016年同文館出版、「内部監査の課題解決法 20」2012年税務経理協会、論文「内部監査報告書の本質論と実務対応～監査の指摘事項と改善提案をめぐる問題」日本内部監査協会「月刊監査研究」2017年5月号、「海外監査の検討課題～成熟度レベルに応じた問題認識と対応」同2013年11月号、「リスクマネジメントに対する内部監査の対応～最適化シナリオに向けて」同2012年3月号掲載、他多数。

●プログラム●

■講義／対応が急がれるガバナンスとリスクマネジメントの監査 <14:00～16:30>

子会社や部門の組織活動の監査では意思決定構造など業務コントロールとは違った見方をしないとうまく全貌を捉えることができません。また業務監査中心の収益部門の監査とは異なり、本社の間接部門の監査でも業務プロセスとは異なる組織的な視点が重要です。このような場合に考えなければいけないのが、ガバナンスやリスクマネジメントの監査です。IIAの内部監査の定義でも、組織のガバナンスやリスクマネジメントは、コントロールと並んで重要な監査領域とされています。ですが、多くの企業ではその監査アプローチは未開拓のままであります。しかし、昨今の大企業の不正事件はJ-SOXの実効性にも疑問を投げかけており、この領域の監査方法の整備は、内部監査の付加価値を底上げするという以上に、内部監査部門の責任として急務と考えられます。ガバナンスとリスクマネジメントはもとより経営的なインパクトが大きいだけでなく、昨今、企業風土への監査対応など不正や不祥事対策という点から注目されています。しかし準拠性監査の延長線上ののような方法からうまく脱皮できていない企業もあるようです。

今回は、子会社や事業部門あるいは本社機能の監査においてガバナンスやリスクマネジメントをどのように捉えて監査するか、その現実的な対応の方法についてわかりやすく解説します。

1. リスクマネジメントの視点から切り出す監査アプローチ
2. ガバナンス志向経営監査の着眼点と展開方法
3. 統制環境と組織風土に対する監査対応

■講義をベースとしたディスカッション＆総括コメント <16:30～17:00>

～自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	31,320円	一般	34,560円
-----	---------	----	---------

〔本体価格 29,000円 本体価格 32,000円〕

*会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。<http://www.bri.or.jp>

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてFAXまたはE-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者がご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社）企業研究会

担当）居代 E-mail: ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951～2

170188		2018 4/17 内部監査実務マスター・コース	
会社名			
住 所	〒		
TEL FAX			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			